



1 回だけでも！ 続けたい人も！ やってみよう！

生ごみって
燃やすごみ？

超かんたん！ 生ごみコンポスト 2021

いえいえ、それは
もったいない！



生ごみって、臭うし、重たいし。
ごみ出しは手間だね。

うちでは、生ごみを土に混ぜ込んでから、燃やすごみは
週に 1 回。だからごみ袋軽いよ。“びせいぶつ”のおかげ。





びせいぶつ？ 土に混ぜる？
なにになに？？？ ごみ出しが簡単になるの？

●超かんたん！生ごみコンポストの特徴

- ・身近にあるもので誰でも気軽に始められる！ ランニングコストをかけません。
- ・生ごみを基材(土)に混ぜ込むだけ。(水と二酸化炭素に分解され、土が増えすぎて困ることはありません)
- ・生ごみをしっかり混ぜてから、常に土に隠れている状態にするため、悪臭もハエもほとんど気になりません。
- ・ごみ出しが楽になって、庭の土が肥えるうえに、燃やすごみの減量、ごみ処理エネルギーの削減にも貢献！

●おすすめ“かんたん”コンポスト容器

	空きプランター 	リユースの段ボール 
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・空きプランター(例 20×45×30cm) ・スコップ ・すでにある土を基材として活用 <p>落ち葉たい肥を基材に 使うと、良い事いっぱい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2重の段ボール(例 35×40×H35 cm) ・スコップ ・すのこや網状の台(底面の通気性を保つ) ・虫除けカバー(古布を被せてゴムで留める、又は箱を特大の洗濯ネットに入れる・・・等) ・庭の土や、プランターの土を活用。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・空きプランターがあれば、すぐ始められる。 ・フタを開ける手順が無いので、虫が飛び出てビックリすることがない。乾燥しやすい。 ・容器がしっかりしているのので、壁面沿いの土も混ぜやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールなど手近にあるもので始められる。 ・フタがあるので、プランターに比べ温度が上がりやすい。(微生物が活発になり分解が比較的早い) ・フタとカバーで管理すれば、ハエなどの不快な虫が発生しにくい。
手順	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは1度、生ごみを土に埋めてみる。1週間後に、消えているか確認。 ・週に1日から始めて、少しずつ頻度をあげる。投入しない日も、混ぜてるとよい。でも毎日混ぜなくても問題ない。 ・野菜くず(植物性の生ごみ)だけで始めてみる。細かく刻んで混ぜたほうが、早く分解。でもそうなくても問題ない。 ・雨が当たらない場所に置く。50～60%の湿度を保つ。(土を握って広げたときにホロっと崩れる程度) ・生ごみ投入時には、生ごみと土をしっかりと混ぜ(和え)た後、その都度、土で覆い隠す。 (生ごみ同士ががくつついた状態は水分量が高くなり腐敗しやすく、腐敗臭が虫を呼びます。) ・「米ぬか」「動物性生ごみ」「もみ殻くん炭」などを入れると微生物が活発に働き、分解が早く進む。 	

落ち葉たい肥で 超かんたん！生ごみコンポスト

【スケジュール】

* 詳細は、参加受付後に別途メール等でもご案内します。

参加して
ステンレスボトル
をゲットしよう！

① 参加申込

メールフォームより「生ごみコンポスト」申込アンケート*に回答ください。

<https://kyoto-gomigen.jp/works/278.html>

* 期間中、情報発信メーリングリストに登録いただきます。コンポストに関する情報を発信します。(週 1 程度)

* 団体 (5 名以上) での参加は、お電話にてお問合せください。

(落ち葉たい肥の活動をされる場合はタヒロン*貸与。先着 5 団体) *タヒロン：落ち葉たい肥用メッシュバッグ



② 埋めるための基材 (落ち葉のたい肥 約 5 ℓ) をお渡しします。(お手元の土でもできるかも。ご相談ください)

期間：7月～8月中(木・日・祝日を除く) 9時～17時

お渡し場所：京エコロジーセンター2階 京都市ごみ減量推進会議事務局(伏見区深草池ノ内町13)

* 事前に(できれば4日前までに)ご希望日をお知らせください。

* 落ち葉たい肥を持ち帰る袋はご持参ください。

(新品のプラ袋ではなく、使用済レジ袋・米袋や、燃やすごみの袋(黄色い有料指定袋)等を活用ください。)

容器の指定はありません。段ボールや空きプランターの利用をお勧めしています。

③ 空きプランターや段ボール箱に基材を入れて、乾燥している場合は水を補充する。(基材の量が不足する場合は、手元の土などを混ぜる)

生ごみが固まったままだと腐敗し、虫を呼び寄せます。しっかりと土と和えることと、その都度最後は土で覆うことがポイント。

④ 毎日出る生ごみを、基材に混ぜ込み、たい肥化します。

・混ぜ込むタイミングは、週1回でも、毎日でも。できる範囲でOK。(1か月～3か月間 続けてください)

・期間中、コンポストの情報をメールで受け取っていただきます。(週1回程度 12月まで)

・困ったことや、発見したこと、ご質問などは、適宜メールにてお問い合わせください。

⑤ 中間アンケート*に回答ください(10月末頃予定。メールでご案内します。)

* 期間中に、土の養分バランスを調べる体験会などを予定しています。詳細は、参加者へメールでお知らせします。

⑥ 終了アンケート*にご回答ください(12月末頃)

★開始時、中間、終了時の3回全てのアンケートに回答いただいた方にはステンレスボトル(又はボトル洗いブラシ)を進呈。(郵送または手渡し)

💡自分が続けやすい方法を見つけてください。(手間、たい肥の使い道、ランニングコスト)

💡目指せ！地産地消コンポスト

循環ってそういうことか💡



●お問合せ先●京都市ごみ減量推進会議(公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 ごみ減量課 担当 藤田)



TEL 075-647-3444 (木・日・祝定休)

FAX 075-641-2971

E-MAIL sanka@kyoto-gomigen.jp

HP <http://kyoto-gomigen.jp>

この印刷物が不要になれば、雑がみとして古紙回収へ

段ボールコンポストの準備と使い方

<材料>

- ・段ボール箱 (35cm × 40cm × 35cm くらい)
(底面は2重にしてください)
- ・ガムテープ (補強用)
- ・段ボールを置く通気性の良い台 (苗トレー、スノコなど)
- ・虫よけの布 (段ボールの上面の倍程度の大きさ)、平ゴム
- ・基材 (落ち葉たい肥、土)
- ・スコップ



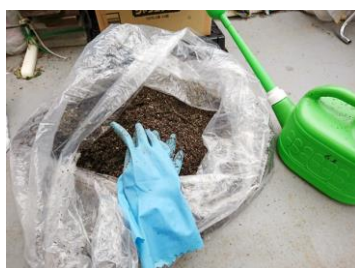
- * 米ぬかを加えると発酵が進みやすくなります。頻度は問いません。加える時は、生ごみや土にまぶす(ダマにならない)ように混ぜ込んでください。
- * 2箱目は、出来上がった1箱目のたい肥を基材に使うことができます。

★ 準備 ★

- ② ガムテープで箱を補強します。



- ① 袋やシートの上で基材を混ぜ、水分を足します。(土を握り、開くとほろほろと崩れる程度の水分量)



- ③ 箱の6分目くらいまで土を入れます。ここに、生ごみを投入していきます。



- ④ 通気性のある台に置き、(雨のかからない風通しのよい所)布をかけて、輪にした平ゴムで固定します。



★ 使い方 ★

1日1回、生ごみ(300g程度まで)を入れます。少し掘ったところに投入し、土としっかり混ぜ合わせてから、土で覆います。(生ごみは見えない様に)これを毎日繰り返します。

⇒余っていた苗トレーを上にかけたら、さらに虫が減りました。



▲3月開始コンポストの8月の状態

●たい肥の楽しみ方

- ・使いたい時期の1か月以上前に、生ごみの投入をストップし、時々かき混ぜて空気を含ませ熟成させます。
- ・発酵が不完全なものは、植物の成長を阻害することがあります。発酵・熟成にかかる期間は、投入する生ごみの種類、その細かさ、気温、米ぬか等の投入量、自然のバランスによります。
- ・基材の半分程度をガーデニングに活用し、残りの基材とその他の土で、生ごみコンポストを続けてください。
- ・落ち葉をたい肥化したものを基材にすると、分解も早く、お庭の落ち葉も併せて活用(処理)できます!

- ご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。

●お問合せ先● 京都市ごみ減量推進会議 (公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 ごみ減量課 担当 藤田)



TEL 075-647-3444 (木・日・祝定休)

FAX 075-641-2971

E-MAIL sanka@kyoto-gomigen.jp

HP <http://kyoto-gomigen.jp>

この印刷物が不要になれば、雑がみとして古紙回収へ